



日本初記録のアオガン（撮影：狩野博美）
2019/20年の冬、アオガン1羽が伊豆沼周辺で観察されました。
タイミル半島などロシア北部で繁殖し、カスピ海や黒海の沿岸域で越冬する鳥で、日本では初記録となります。

Vol.118
令和2年度4月号

自然再生事業実施計画（第2期）が策定されました



2010年から実施されてきた、伊豆沼・内沼の自然を再生するプロジェクト。2020年より第2期が実施されます。第2期のターゲットはエコトーン（移行帯）の再生。水と陸の間にあるエコトーンは、魚の産卵場となるなど、生き物にとって重要な環境です。しかし、長年の水位管理などにより伊豆沼では浸食されてしまいました。これから、少しずつエコトーンの復元を図り、魚や植物、水鳥が集う水辺づくりに取り組みます。

伊豆沼南岸において浅瀬の造成が行われました。



造成した浅瀬の様子

浅瀬の造成作業

湖岸の浅瀬が伊豆沼では減っています。湖岸の浅瀬は、マコモなどの水草が茂り、生息する魚や水鳥、水生昆虫の産卵、生育の場となる大切な場所です。しかし、浅瀬は湖のダム化に伴う高水位管理や波浪による浸食、干拓などによって減少してしまいました。その結果、水草の減少によって水質が悪化し、湖に住む生き物が減ってしまいました。

そこで、伊豆沼の要とも言える浅瀬の造成を、伊豆沼南岸の彦道地区で行いました。造成には浸食を招きにくい粗朶などを使用し、湖岸浸食によって湖底に堆積した土砂を岸に戻した結果、浅瀬が完成しました。

今後も水草の植栽など、維持管理に努めていきます。

バス駆除でタナゴ再生

タナゴ（マタナゴ）は、関東以北の本州に分布しているタナゴ属の淡水魚です。昔は広く分布していたタナゴですが、様々な環境の変化によって数を減らしており、伊豆沼・内沼周辺では、オオクチバスの影響によって、2000年以降ほとんど姿が見られていない状況でした。しかし、2019年に行った調査で、タナゴが生息しているため池が発見されました。そのため池では過去にバス駆除のために池干しを行っており、バスがいなくなったことで、上流のため池から流れてきたタナゴが増えたと考えられます。

全国的にバス駆除が行われるようになった近年、ため池は希少魚の自発的再生のソースとして期待されています。



シナイモツゴ郷の会で講演しました。

「シナイモツゴ郷の会」のミニシンポジウムで講演させて頂きました。テーマは「ゼニタナゴ保全と取り組みと課題」。郷の会と財団にとって共通する課題です。ゼニタナゴ保全にとって最大の課題は二枚貝の保全。水質汚濁やアメリカザリガニによって二枚貝が減少しているのです。郷の会のメンバーからはたくさんの質問がでて、意識の高さを感じました。これからも交流を続けていきたいと思ます。



ゼニタナゴ



カラスガイ

生き物図鑑 コイ・フナ



4月上旬、ばちやばちやと音が聞こえたら、それはコイやフナの産卵です。魚たちは浅瀬の草に卵を産み付けます。浅瀬は水温が上がりやすく、餌となるプランクトンも多いので、稚魚はよく成長するのです。浅瀬は魚にとって大切なゆりかご。ばちやばちやと音が聞こえたら、そっと水辺を覗いてみて下さい。

